

日本紅斑熱の感染者の発生について

令和元年10月18日
京都府健康福祉部
健康対策課(075-414-4722)
京都府山城北保健所(0774-21-2911)

令和元年10月15日(火)、府内の医療機関からマダニが媒介する日本紅斑熱が疑われる患者発生について山城北保健所に情報提供があり、保健環境研究所による検査の結果、本日、患者であることが確定しましたのでお知らせします。

つきましては、マダニの活動が活発な時期ですので、府民に対して裏面の事項について注意喚起いただきますようお願いいたします。

1 患者の概要

- (1) 年齢・性別等 70歳代 男性
(2) 症 状 発熱、肝機能異常、血小板の減少 等
(3) 患者の状況 医療機関に入院・加療中。集中治療を要する状態
(4) 経過 10月8日 発熱(38℃)
9日 診療所に受診
10日 解熱薬で熱が下がらず(39℃)
13日 妻が患者の異常行動に気づく
意識レベルの低下があり、病院に救急搬送
(5) ダニの刺咬歴等 足にダニの刺咬痕あり。
10月6日に滋賀県内で山歩きをしており、その際にマダニに刺された可能性がある。

2 今年の近畿府県での発生状況 (10月6日時点)

(件)

滋賀県	京都府※	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
2 (死亡例1)	4	5	13	1	20

※ 今回の件を含む。

3 報道機関の皆様へ

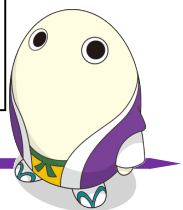
感染症法の趣旨に則り、個人情報保護の観点から患者やその家族・関係者等が特定されないよう、特段の御配慮をお願いいたします。

【日本紅斑熱とは】

日本紅斑熱リケッチアに感染することで引き起こされる病気で、リケッチアを保有しているマダニに咬まれることにより感染すると言われていますが、人から人に感染することはありません。

刺されてから2～8日頃から頭痛、全身倦怠感、高熱などを伴って発症します。CRP陽性、白血球減少、血小板減少、肝機能異常などはつつが虫病と同様ですが、つつが虫病に比べDIC(播種性血管内凝固症候群)など重症化しやすい特徴があります。抗菌薬により治療します。

【裏面あり】



府民の皆さまへお願い

- 1 感染防止のため、マダニに咬まれないように注意しましょう。
 - マダニは、主に草むらや藪・森林にいます。このような場所で長時間地面に直接寝転んだり、座ったりするのは止めましょう。
 - 草むらなどに入るときは、長袖、長ズボン、手袋、長靴等を着用しましょう。また、色の薄い服はくっついたダニを見つけやすくなります。
 - ダニをよせつけないために、肌の露出部分や服にDEET（ディート）などの有効成分が含まれた虫除け剤の使用も有効です。虫除け剤は皮膚の露出部に使うか、衣服の上から使います。（説明書をよく読んで使用してください。）
 - 帰宅後はすぐ入浴し、体をよく洗い、新しい服に着替えましょう。
 - 着ていた服はすぐに洗濯するか屋外で天日干ししましょう。

- 2 もしマダニ類に刺されたら
 - マダニ類の多くは、人や動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から、長いもので10日間）吸血します。無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ったり、ダニの体内や傷ついた皮膚からでる液体に病原体がいる可能性があるため、できる限り直接手でダニを取ったり、つぶしたりせず、すぐに病院で処置してもらいましょう。
 - マダニに刺された後に、発熱等の症状が認められた場合は、早めに医療機関を受診してください。